



調査研究事業A

「変わりゆく国際秩序における日本の外交戦略 —中国の對外行動分析枠組みの構築を踏まえて—」

困難なテーマに取り組む調査・研究会活動、日本の政策サークルを底上げする実施体制

国際社会の力の分布の変化の担い手である中国に対して、その外行動決定の構造やそれに影響をあたえる国内要因、外交戦略に対する理解は十分ではない。本事業は、誰がどの様に中国の對外行動に影響をあたえているか、そしてその変化を説明するための分析枠組みを提示しようとしているところに新規性がある。本事業では、いまだ成し遂げられなかった中国の對外行動を観察し理解するために、政策サイクルを用いてその分析枠組みを構築し、日本がとるべき総合的な外交戦略の指針を探っている。（右図）

主要な研究者
合計22名

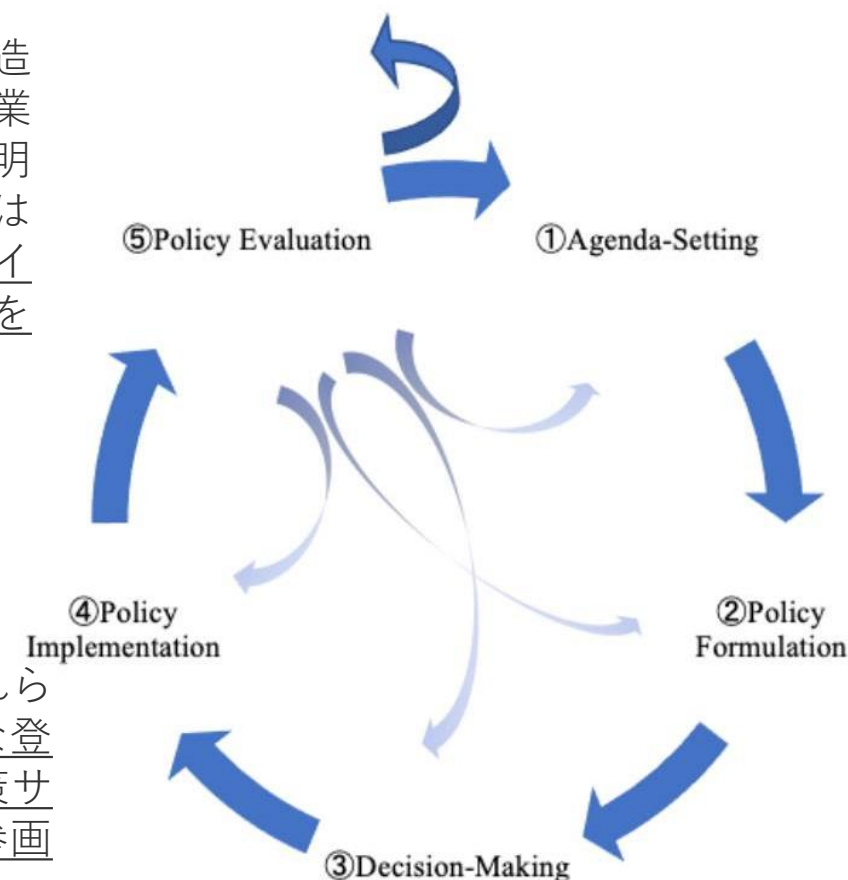
（うち若手9名、女性7名、首都圏以外の在住者8名）

41%

32%

36%

特に、将来を有望視される選りすぐりの若手・中堅専門家も名を連ねる。これらメンバーが各種の研究会合、海外シンクタンと共催のセミナーにおける積極的な登壇・報告、さらに日本語、英語、中国語による論考執筆などを行い、日本の政策サークルの裾野を拡大し、日本の主張の世界への積極的発信と国際世論形成への参画も強化する。





諸外国シンクタンク・有識者との関係強化 日本の主張の世界への発信 国民の外交・安全保障問題に関する理解増進

2022年3月13日

国際シンポジウム「中国の対外行動を突き動かしているダイナミクスを読む-権威主義体制、個人集権、官僚組織-」の開催



中国研究機関
との多様な対
話の実施
社会科学院、
復旦大学など

2021年8月～

シリーズセミナー「中国を如何に捉え、どう向き合うか—中国の対外行動を突き動かしているダイナミクスを読む—





政策サイクルを用いて、複数の事例研究を行い、中国の対外行動分析の新たな枠組みを構築 2冊の書籍を発刊

『中国の対外行動を突き動かしているダイナミクスを読む -権威主義体制、個人集権、官僚組織-』

はじめに	加茂 具樹	
序 章	加茂 具樹	外交と政策過程研究の系譜
第2章	林 載桓	「ばらばらな権威主義」の終焉？
第3章	大澤 武司	習近平と対日歴史問題
第4章	真家 陽一	「知財強国」建設に向けた中国の政策動向
第5章	山崎 周	中国の対外政策における国家発展改革委員会の役割と重要性
第6章	江口 伸吾	中国の農村地域政策の展開と食料安全保障
第7章	熊倉 潤	習近平時代の反テロ政策のアジェンダ・セッティング
第8章	内藤 寛子	習近平政権の法に基づく対外政策の推進
第9章	城山 英巳	米日欧「人権外交」拠点としての在北京大使館
第10章	下野 寿子	台湾への優遇政策をめぐる地方政府の関心
第11章	マチケナイテ・ヴィダ	胡錦濤から習近平までの中国の極地政策
第12章	飯田 将史	スカボロー礁と尖閣諸島をめぐる中国の政策過程の特徴
第13章	井上 一郎	新型コロナ感染症への初期対応にみる官僚制バイアス
第14章	小嶋華津子	「個人情報（情報）保護法」の成立過程
第15章	廣野 美和	中国国連平和維持活動における政策決定過程
第16章	諏訪 一幸	「誕生記」が明かす中国共産党総書記の権力行使

『感染症と国家能力 中国は新型コロナウイルス 感染症とどう向き合ったのか』

はじめに	加茂 具樹	中国共産党と国家能力
序 章	林 載桓	統治能力再訪：中国政府のコロナ対策を事例として
第2章	加茂 具樹	新型コロナウイルス感染症対策の政策過程
第3章	井上 一郎	コロナ感染症と中国の「正統性」の追求
第4章	江口 伸吾	基層社会における「グリッド管理」の展開と国家能力の再構成
第5章	渡辺 直土	共産党政権における感染症対策と基層社会のガバナンス
第6章	飯田 将史	SARSと新型コロナからみる中国外交の変化
第7章	山崎 周	SARS危機及びコロナ禍の中豪関係
第8章	廣野 美和	国際人道支援としての中国の国際コロナ対応

